

## 国際都市で研修を終えて

氏 名 ラケル デ ソーザ イ シウバ  
バルキーニャ ルス  
出身国 ポルトガル共和国  
受入自治体 長崎県長崎市  
研修先 長崎市役所



### 1. 本事業に応募した動機

私は非常に発達した国で進んだ実務を学ぶことを通して、多文化コミュニケーション技術を向上させたかった。また私は長崎市とポルト市の間の相互協力を育むことや、相互理解に貢献したかった。特にこの姉妹都市提携 35周年の年に行いたいと思っていた。加えて、私は遠い地でまた多くのヨーロッパ人とポルトガル人と関係のある都市で研修員になってみたかった。さらに、ポルトガル国内から多くの関心を寄せられている都市に来たかった。最後になるが、素晴らしい日本文化をよりよく知り、平和活動で世界的に有名な都市に住んでみたかった。

### 2. 研修の概要

5月に到着して、日本の行政や国際研修プログラムについて学んだ。また私は国家、地方行政組織の紹介を受けた。その後、日本語や日本文化を学び始め、これを11月まで続けた。定期的に授業やイベントに出ることで日本語を学んだ。

7月には長崎に到着し、田上市長に表敬訪問を行った。長崎では国際課の日常業務を経験した。私はポルトガル語への短い翻訳に取り組んだり、どのように外国人観光客がサポートされているかを学んだ。また私は、たくさんのイベントに参加したり市内外で視察を行った。視察先の多くはポルトガルと関係のあるものだった。このことから、ポルトガル文化とキリスト教の強い影響を知ることができた。この後、広報分野の活動、例えば、Facebook への投稿原稿



平和祈念式典



新駐ポルトガル日本国大使  
による表敬訪問

の執筆手伝いや広報誌、新聞、TVの取材同行などを行った。

たくさんの関係箇所を訪れ、市内外でたくさんの平和実現への努力について知った。8月には長崎平和祈念式典へ参列したが、私が出席した中で最も重要なイベントであった。その式典では、式典実施のために膨大なプロトコールや巨大な運営計画が必要であることが分かった。この長崎で学んだことは私がポルトガルに戻ってから同様のイベントを組織するために重要である。



35周年イベント

9月からは小学校や長崎大学で講義を行った。

本研修課程を通じ、私たちの両都市の文化が470年にわたり公に関係を保ってきたことを学んだ。日本人でポルトガルに関係する公の人々や長崎ーポルトガル友好団体とのつながりをもつことで、ポルトガルの文化がいかに長崎で敬意をもって受け入れられているかを知った。10月にはうんすんカルタ大会に出場した。11月には長崎市ーポルト市姉妹都市提携35周年イベントに参加し、市民にポルトガルについて紹介した。こうしたイベントを通じ、長崎がポルトガルに対してもっている尊敬の念について感じた。

### 3. 帰国後の展望

日本語を学び続け、2014年に地元のポルト大学で行われる日本語能力試験を受験するつもりである。ポルト市の上司にこの6か月の研修の成果を報告し、私が学んだことを同僚のためにプレゼンテーションにして伝える。長崎で学んだことを共有したり、ポルト大学と会議を行い教育協力プログラムを提案してみようと思う。ポルト市を日本人や他の外国人観光客にとってより友好的な観光地になるように意見を言ってみる。観光客用の日本語パンフレットを編集したり、もっと多くの日本語版パンフレットを作成したい。また在住外国人については、外国人を正式な手順で手助けするため長崎市が作成しているような冊子の制作を提案しようと思う。上司に長崎平和祈念式典と、平和首長会議の重要性について紹介したい。そして、多くのポルトガルの都市に平和首長会議に参加してもらいたい。また、長崎と将来高いレベルでの政治ミッションを行う必要性を説明したい。政治家、国際関係の職員や日本と貿易を行っている地元企業への研修を実施することを計画するつもりである。私は彼らに日本のプロトコールのルールと習慣について教えたい。